

県外派遣報告書

審判員名(報告者)	小山 洋一	所 属	社会人連盟
大会名	第8回全国社会人バスケットボール選手権大会		
期 間	2026年 2月21日(土) ~ 23日(月)		
会 場	京都市体育館・島津アリーナ京都		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 10日	審判会議・研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 21日	男子1回戦	島津アリーナ京都	
2月 22日	男子準々決勝	島津アリーナ京都	
2月 23日	見学	京都市体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>メカニクス：唐川 幸 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ローテーション：トップリーグレフリーでも実践している積極的なローテーション。①クローズダウン、②ボールサイドへ走ることなくテンポ良くシャープに歩き、新たなストロングサイドの形成、制限区域内を見渡してアクティブなマッチアップの把握するスキャンザペイント、③フィニッシュ時はミラーザボールの位置で体の向きを変えて完了する。3点を実践することでメカニクスを大きく崩すことなく積極的なローテーションを行う。 ● プライマリー：自身のプライマリー内にいるプレイヤーと入ってくるプレイヤーの把握。プライマリーエリアの人がシンプルに判定をすることが望ましい。 ● アングル：目の前で何かが起こっているのは確実だが、コンタクトの確認ができない場合はアングルをもつレフリーが判定する。なんとなくではなくポジションアジャストをしたりして適切な位置取りをして他の二人が見えないアングルをカバーする。 <p>ヘルプディフェンダー：西 和馬 氏</p> <p>ペイントで起こるコンタクトの全てがリードではなく、ストロングサイドヘルプディフェンスとウィークサイドヘルプディフェンスの考え方は継続で、主にリードとセンターがそれぞれのヘルプディフェンダーを担当していく。1番手はコンタクトのあったエリアのプライマリレフリー、2番手はそのヘルプディフェンダーを長く見ていたレフリー。この2つをどのように共存させていくかをトップリーグでも取り組んでいる。</p> <p>色々考えると、笛が鳴らなくなってきてしまうので、考えすぎずにインパクトがあるコンタクトに対してシンプルにコールしていく。ダブルで鳴った場合はプライマリレフリーがしっかりテイクしていき、トリプルで鳴ってしまうこともあると思うがゲーム中に修正していく。</p> <p>プレイコーリング：伊藤 睦哲 氏</p> <p>タフでフィジカルなプレイを引き出すために極力、笛数を少なくしてクリーンでタフなゲームを作っていくために必要な技術としてペイシエントホイッスルがあると思っている。マージナルカイリーガルかの見極めをして、プレーがしっかり見届けられるものに関してはバスケットボールの醍醐味としてマージナルをプレイオンという形で持っていきたい。ペイシエントするものとイミディエイトで対応するものを使い分けゲームコントロールに繋げていく。プライマリーはスタート→ディベロップ→フィニッシュの絵が出来るところまでペイシエントして見届ける。セカンダリーはプライマリーが安定するまで見届けた上で、明らかなものに笛が入らない場合はコールしていく。</p> <p>今回の重点項目は、①プロテクトシューター、②リバウンドの攻防、③スクリーンプレイ、④ポストプレイ、⑤トラベリング、⑥UF (C3)。</p> <p>コミュニケーション：古畑 咲 氏</p> <p>審判のコミュニケーションは3つ。①ジェスチャー：正確に会場に伝えるシグナル。②ホイッスル：ファールやバイオレーションを知らせる合図。③言葉：T.Oへの報告、選手やコーチへの建設的な対話。</p> <p>建設的なコミュニケーションの手順として、何を求めているのか要件を聞く、事実を確認する、事実について説明する、準備をする、</p>			

対応策を示す、クレームの種類に応じた感謝の気持ちを伝える。要件を聞く際に心がけることは、前置きと傾聴。

前置き：本題に入る前に相手の準備を整え、誤解の予防につながる。

傾聴：相手の話の耳に傾け共感し、真摯に聞く。相手のインテンシティなどを様子見ながら。ゲームの流れを止めてしまう可能性もあるがこればかりは審判の知る事ではない。

審判として大切なすべき仕事は、ルールに基づく公平、原則、冷静な判断、選手やチームへのリスペクト、正確な位置取り、ポジショニング、熱くなる試合を円滑に進行させて、信頼される技術を磨くこと。確実な判定力、冷静さ、向上心、コミュニケーションはゲーム運営に必要な一つのスキルにすぎない。これらを忘れずにコートに立つ。

担当試合①

期 日	2月21日(土)
対戦カード	山口クラブ(中国2位/山口県) vs 友広会 SOLMONSTRE(近畿3位/大阪府)
ク ル ー	CC:高畑 昇平 氏(奈良県) U1:小山 洋一(埼玉県) U2:佐藤 淳 氏(佐賀県)
ミーティング内容	審判主任:木村 裕也 氏(大阪府)

▶ ゲーム前のPGC

3人がプライマリーを守りながらシンプルにコールしていけるようにボールサイド2の形成、スムーズなローテーション等ベーシックなメカニクスの実践。平等感、公平性をもったテンポセットをしていく。時計の管理とTOとのコミュニケーション。

▶ ゲーム後のミーティング

3人がプライマリの中でしっかり判定していた。2人になったケースでもプライマリレフリーがしっかりテイクしていたので良いクルーワークが発揮されていた。要所要所でゲームが引き締まる笛が入っていて良かった。

▶ ゲーム全体の感想

初めてのクルーではあったが考えを共有しながら良いクルーワークを発揮できた。プレイに対しても自分なりに考えながらも楽しく判定し続けることが出来た。選手ともコミュニケーションをとる機会を多く作ることができ、チャレンジしたことがプラスになることが多かった。

担当試合②

期 日	2月22日(日)
対戦カード	日立大みか(関東2位/茨城県) vs 籠(東海2位/三重県)
ク ル ー	CC:田中 優志 氏(滋賀県) U1:菊地 拓希 氏(宮城県) U2:小山 洋一(埼玉県)
ミーティング内容	審判主任:西 和馬 氏(本部)

▶ ゲーム前のPGC

第二試合の勝ち上がりとなるのでスカウティングをした中でタフなゲームになることが予想された。プレイスタイル・キーマンの確認。積極的なローテーションなどメカニクスの確認。プライマリーエリアとアングルを守りながらチープなものはコールせずにタフに戦っていける環境づくり。

▶ ゲーム後のミーティング

序盤、判定が重く感じられたが、クルー共通でローテーションがテンポよく出来ていたのでプライマリレフリーがしっかり判定に繋げることが出来ていた。タフなゲームではあったがコミュニケーションを取りながらコントロール出来ていた。

▶ ゲーム全体の感想

チープなものを吹かないようにしていたがシンプルに起こったことをコールした方が良かったケースもあった。結果的にコールしなかったことによってそれがゲームに影響を与えること、その両極性から判定の一つ一つの重さと積み重ねの重要性を感じた。特に「ファーストコールを大切に」という言葉の意味を考えさせられるゲームであった。

全体の感想

はじめに、久保委員長をはじめ、全日本社会人バスケットボール連盟の皆様、本部派遣審判員の皆様、PBA派遣審判員の皆様、京都府バスケットボール協会の大会関係者の皆様、富島様、山下様をはじめ、審判員の皆様には細部に渡るご配慮を頂き、大変お世話になりました。有難うございました。また、今大会へ派遣して下さった、埼玉県バスケットボール協会、日頃より活動をご一緒させて頂いている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

前年度の熊本大会に続き、今年度も参加させて頂き大変光栄でした。私自身、次年度からの様々な立場の変化や一年間での変化がどれだけあり、どれだけチャレンジできるのかと考えていました。実際にコートに立つと、チャレンジできたこと、修正しなければならない事があったがこの場所では気づけないことが多くあり、貴重な経験ができました。タフにプレイする中で審判が介入する部分の見極め、ゲームフローとファウルフローなどをより考えるようになった。また、多くの審判員の方とコミュニケーションをとることができ、仲間が増える喜びや色々な視点や意見を共有できた事が幸せでした。

来年度は埼玉県開催ということで、今まで以上に全体を見て大会が無事に終わられるように力を発揮すると同時にコートに再び立てるように、ここからさらに気を引き締めて、精進して参りますので引き続きご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	山宮 紅葉	所 属	社会人連盟
大会名	令和 7年度 全日本社会人バスケットボール選手権		
期 間	2027年 2月21日 ~ 23日（参加日：2月21,22日）		
会 場	島津アリーナ京都（京都府立体育館）、京都市体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月10日	研修会	ZOOM 会議	
2月 21日	ゲーム 宮城クラブ vs LOWS	島津アリーナ京都（京都府立体育館）	
2月 22日	ゲーム TOSFIVE vs 東海クラブ	京都市体育館	
研修会 講義内容			
<p>● 2月10日 研修会（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判委員長 前田喜庸氏よりご挨拶 →全国大会という舞台で、準備をしっかり行って欲しい。公共機関の乱れも起こりうるで気を付けてほしい。 ・副委員長 久保裕紀氏よりご挨拶 →準備をしっかり行ってほしい。「BASIC」が大切であると、確認してほしい。 <p>1. 唐川 幸氏「メカニクス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクスの重点項目（①ローテーション ②primary、アングル ③help defense） ① ローテーション <ul style="list-style-type: none"> (1) リード クローズダウン（ボールがミッドレーンに移動した場合、リードは制限区域内の外側“クローズダウンポジション”に位置する。） →ローテーション（ボールがミッドレーンからウィークサイドに移動した場合、ボールサイドへ走ることなくテンポ良くシャープに歩き、新たなストロングサイドを形成する。制限区域内を見渡してアクティブなマッチアップを把握する“スキャンザペイント”） →フィニッシュ（セットアップポジション“ミラーザボールの位置”で体の向きを変えてローテーションを完了させる。） (2) トレイル ・ボールがミッドレーンを越えた際に、ローテーションを準備する。ボールがミッドレーンを越えてからセンターがボールにマッチアップをチェックインしたことを確認する。 ・リードのローテーションに合わせて、センターのポジションに降りる。ボールのマッチアップが戻ってくることも意識しつつ、目線をオフボールに当てる。 (3) センター ・ミッドレーンを越えたボールのあるマッチアップをチェックインする。（センター側のオフボールのプレーヤーからも目を離さない。） ・リードのローテーションが完了し、判定の準備が整うまでプレイにステイする。 ○ローテーションを行わない場合 ボールがウィークサイドの移動した後すぐに、ショットやドライブが起きた場合 →ローテーションを始めた後でショットやドライブが起こった場合において、両足がミッドラインを超えている場合は、ローテーションを完成させ、超えていない場合は、バックペダルを踏む。 ・ゲームクロックやショットクロックの残り時間が少ない場合も行わない。 また、プレイの状況に合わせて、ローテーションを起こさずフィニッシュに備えて安定したトライアングルを形成することが望ましい場合 			

担当試合①	
期 日	2月21日(土) 女子1回戦
対戦カード	宮城クラブ(淡) vs LOWS(黒)
ク ル ー	CC:伊達 桃子氏(大阪府) U1:熊野 悠生氏(山口県) U2:山宮 紅葉(埼玉県)
ミーティング内容	審判主任:塚本 圭右氏(兵庫)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>各クルーの課題や目標確認</p> <p>チームスカウティング(傾向と対策) ➡ 癖、戦術確認、両チームの勝ち上がり方</p> <p>→各クルーのスカウティングのコンセンサス、DFとOFの戦術と伴う予想</p> <p>エッジ下のプライマリーの確認</p> <p>ヘルプディフェンダー(アングルの取り方と事前研修についての確認 ※☆)</p> <p>確認事項(TO)</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>・クルー各反省、ケースについて。</p> <p>ゲームにおいて、濃色(LOWS)のDF時の距離が近く、コンタクトも多かった。</p> <p>→イリーガルなコンタクトが減らず、どのように整理すべきだったか考察</p> <p>・TFの事象に関してクルー間で反省と共有</p>	
担当試合②	
期 日	2月22日(日) 女子準々決勝
対戦カード	TOSFIVE(白) vs 東海クラブ(紺)
ク ル ー	CC:津田 弥子氏(広島県) U1:加藤 加織氏(滋賀県) U2:山宮 紅葉(埼玉県)
ミーティング内容	審判主任:小出 聡子氏(京都府)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>各クルーのスカウティングと両チームの前日の試合や軸となる選手の情報共有</p> <p>→前日のゲームから推測されるゲーム展開とセットするべき基準について。 / DFとOFの戦術と伴う予想</p> <p>→ハーフアップを見てのフォーキャスト(メンバー確認、各チームの連日ゲームによるコンディション、癖、改めてのゲーム展開予想)</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>・クルー各反省、ケースについて。</p> <p>白色(TOSFIVE)の1番に関してのコンタクトや彼女自身の転び方について。</p> <p>→クイックショットも多く3Pも打ち、ボールが集まりやすかった。AOSでの判定において、自ら転んでいる(fake)こともあった。</p> <p>自身のプライマリーにおいて起きた事象も有り。</p> <p>→フェイクの見せ方や使うタイミング、入れたことでのアフターコールの重要性</p> <p>→自身のメンタルとメンタルに伴う判定の変化について。</p>	
次年度開催における視察報告	
<p>・運営体制</p> <p>各役割分担、連絡順路と手段、対戦表によるスケジュールの組み方や間隔、トラブル時の対応について。</p> <p>+ 各県の開催記録のある県の方より情報収集</p> <p>・会場、施設について</p> <p>各会場の動線(審判や役員の動き、選手と観客の動線)</p> <p>TO席と本部席のレイアウト</p> <p>掲示物の工夫(ポイントカード設置場所と設置の工夫) / ウォーミングアップスペースの確保</p>	

全体の感想

はじめに、本大会の開催にあたりご尽力いただきました日本社会人バスケットボール連盟の皆様、派遣審判員の皆様に、心より御礼申し上げます。また、京都府バスケットボール協会の審判員・TO クルーならびに大会関係者の皆様には、細部にわたり温かいご配慮と円滑な大会運営をしていただき、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

事前研修では、「ベーシックの大切さ」「準備することの重要性」を改めて学びました。ベーシックの動きやルール理解を徹底することが、正確で説得力のある判定へとつながることを強く実感いたしました。当日は、試合前の T O ミーティングもあり、T O とのコミュニケーションの重要性についても学ぶことができました。

今大会に臨むにあたり、これまでの自身の課題を克服すること、そして新たな課題を見つけ探究することを目標とし、自分が目指す審判員像を常に意識して準備を重ねました。これまで私は、さまざまな場面で是正点が多く出ることが課題でしたが、今回は「なぜできなかったのか」ではなく、「どうすればできるようになるのか」と前向きに考える姿勢へと意識改革を図りました。ゲーム前・ゲーム中・ゲーム後の振り返りを徹底し、多くの質問事項を準備した上で、各カテゴリーの試合分析や本大会出場チームのスカウティングを行い、責任をもってコートに立ちました。全国大会という舞台の重みを実感するとともに、審判員としての責任の大きさを改めて認識した大会となりました。

最後になりましたが、今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会の皆様、そして日頃より切磋琢磨しながら活動を共にしている県内審判員の皆様にも、この場をお借りして深く御礼申し上げます。皆様の支えがあってこそ、この貴重な経験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。本大会で感じた運営の重みと暖かさを胸に刻み、次年度開催県として、この学びを埼玉県へ還元し、より円滑で実りのある大会運営ができるよう、本視察での気づきを整理し、開催準備に活かしてまいります。